

新世紀における医学プロフェッショナリズム：医師憲章

Medical professionalism in the new millennium : a physician charter.
ABIM Foundation, ACP-ASIM Foundation, and European Federation of Internal Medicine
Ann Intern Med 136:243-246, 2002

序文 プロフェッショナリズムは医学と社会の契約の基礎であり、医師の利益より患者の利益に重きを置くこと、高い水準の能力と誠実さを維持すること、健康に関して社会に専門的助言を与えることが要求される。この原則と責任は医師と社会の双方から理解されなければならない。この契約に不可欠なのは、医師に対する公衆の信頼であり、これは医師個人と医療界全体の誠実に依存する。現在、医師は技術の進歩、市場力学の変化、医療の供給の問題などに直面し、医師は患者と社会に対する責任を果たすことがますます困難となっているためすべての医師が追及すべき普遍的なプロフェッショナリズムの再認識がいっそう重要になっている。

医療の供給、実践には大きなバリエーションがあり、一般原則は複雑で微妙な形で具現される。これらの相違にもかかわらず、共通の主題が浮かび上がり、3つの基本的原則と一連の職業的責務としてこの憲章の基礎が形成される。

基本原則 ① 患者の福利優先の原則、② 患者の自律性の原則、③ 社会的公正性の原則。

専門家としての一連の責務 ① 専門家としての能力に関する責務、② 患者に対して正直である責務、③ 患者情報を守秘する責務、④ 患者と適切な関係を維持する責務、⑤ 医療の質を高める責務、⑥ 医療へのアクセスを改善する責務、⑦ 有限な医療資源の公正な配布に関する責務、⑧ 科学知識に関する責務、⑨ 利害の対立を適切に対処し信頼を維持する責務、⑩ 専門職の責任に関する責務。

要約 医学のプロフェッショナリズムは、医師が個々の患者の福利に対する個人的責務のみならず社会全体の幸福のための医療システムを向上させる努力を要する。この医師憲章は、このような献身を促し視野と目的が普遍的な医療に携わる人々のための行動計画を促すことを意図している。

(東北医科薬科大学産婦人科学教室 酒井啓治 抄)

4価ワクチンを受けている性的活発な若年女性の口腔ヒトパピローマウイルス感染のリスク

Risk of oral human papillomavirus infection among sexually active female adolescents receiving the quadrivalent vaccine.

Schlecht NF et al
JAMA Netw Open 2:e1914031, 2019

目的 ヒトパピローマウイルス(human papillomavirus; HPV)は、子宮頸癌や肛門癌の発症に関係し、HPV口腔感染は口腔咽頭癌に関係する。そこで4価のHPVワクチンが、性的活発な思春期女性のHPV口腔感染に与える影響を検討した。

対象・方法 対象は2007年10月29日～2017年3月9日に、ニューヨークの無料思春期医療クリニックを受診した性的活発な13～21歳の女性。初回受診後は25歳まで6カ月ごとにHPV検査(口腔咽頭、子宮頸部、肛門)を施行し、性的活動、避妊薬の使用、喫煙習慣、違法薬物使用歴などを回答してもらった。主要評価項目はHPV口腔感染率で、サンプルからポリメラーゼ連鎖反応(polymerase chain reaction; PCR)法でDNAが検出できた1,259人が対象となり粘膜組織に感染する40種類のHPVが分析された。

結果 年齢は中央値18歳(13～21歳)で、初回性行為の年齢中央値は14.8歳、1,161人は口腔性交歴があった。初診時までには性行為パートナーが3人以上いた

女性が878人いた。初診時に口腔からHPVのDNAが検出された78人中21人からハイリスク型HPVが検出され、8人から4価ワクチンがカバーする型が検出された。口腔性交歴の有無やマリファナ使用歴、喫煙歴も口腔感染検出率に影響を及ぼさなかった。初回性行為から年数が経過するほどHPV検出率は減少していた。対象中192人はHPVワクチン未接種者で、ワクチンがカバーする4種類の型のどれかが検出される割合は、接種者では非接種者より83%低かった。口腔HPV陽性者の88%が12カ月以内に陰性化し、感染の多くは一過性と考えられた。しかし2人の女性は1年以上ハイリスク型HPVが検出され、持続感染リスクもあることが示唆された。

結論 これらから、性的活発な思春期女性ではHPV口腔感染は珍しくないが、HPVワクチンはカバーしているウイルス型の感染率を減らすことが示された。

(東北医科薬科大学産婦人科学教室 酒井啓治 抄)